

教育委員会だより

令和7年11月28日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

相互連携を大切に ～民生児童委員と教育長と語る会～

11月19日（水）に、『民生児童委員と教育長と語る会』が行われました。代表委員さんの提言により『不登校の現状について』と『特別支援学級と保護者支援について』を議題として協議しました。

教育委員会からは、まず過去5年間の不登校児童生徒数の推移と今年度の重点施策を報告しました。不登校対策が単なる学校復帰を目指すのではなく、将来の社会的自立を目的としていることや、各学校が校内教育支援センターを設置して、教室に入りづらい子どもたちの居場所づくり、学びの確保に取り組んでいることを報告しました。

また、多治見市の特別支援教育における取組と教員の資質向上に向けた研修の機会確保について報告しました。特に、個別の支援を必要としている子どもが増加している現状において、すべての教職員が特別支援教育に対して正しい理解を深めることが必要であることを説明しました。

どちらの議題も、学校と保護者が協力し、子どもが安心して学べる居場所や環境を整えられるよう、密に連携を図っていくことをお話ししました。委員の皆様からは、学校の取組への期待や疑問についてご発言がありました。

1時間ほどの会でしたが、とても有意義な時間になりました。教育長の冒頭の挨拶「皆さんと和やかな雰囲気では忌憚のない議論を深めていきましょう。」という言葉に、笑顔で頷く委員さんの姿がとても印象的でした。



挨拶で地域を一つに ～挨拶で絆の日②～

青少年まちづくり市民会議の皆様を中心に実施されている今年度2度目の「挨拶で絆の日」が、11月4日に市内の小中学校で行われました。透き通った晴天の下で、多くの地域の方、保護者、教職員、そして児童生徒が、寒さを吹き飛ばすように元気よく挨拶を交わしました。

この日は、地域の皆さんが子どもたちの登校時間に合わせて校門などに立ち、温かいあいさつを交わしました。最近では、「おはよう！」「頑張って！」というあいさつに加えて、次々とハイタッチをする光景が見られるようになりました。大人、小学生、中学生が笑顔で気軽に触れ合う光景に、地域みんなの心のつながりを感じることが出来ます。そして、あいさつを交わした人々の心があたたくなり、今日一日を気持ちよくスタートさせることが出来ます。

前回と同様、子どもたちの笑顔と地域の皆さんの優しいまなざしが交差するこの運動は、地域全体で子どもたちを見守り、育ていくことの大切さを改めて教えてくれます。地域の皆様のご協力、本当にありがとうございました！



未来へ歴史や文化を伝える ～市史編纂準備委員会～

多治見市は、今年度市制85周年を迎えました。まだまだ先にはなりますが、令和22年度の100周年に向けて、文化財保護センターでは新たな「多治見市史」を刊行することになり、今年度から準備を開始しました。以前刊行した多治見市史は昭和62年のものであり、その後、考古学・歴史資料等の新たな発見が多く、より詳細に市の歴史がわかるようになってきました。今回の刊行は、これまでの調査・研究成果を踏まえた新たな市史を編纂し、広く公開することによって、調査・収集した地域資料を貴重な文化的遺産として継承し、活用を図ることを第一の目的としています。

10月17日には第1回多治見市史編纂準備委員会が開かれ、市史編纂の目的や内容、課題などが話し合われました。市文化財審議委員の皆様を中心とした委員会で、市史編纂の基本方針やスケジュールに加えて、編纂に向けた課題などをご議論いただきました。今回の「多治見市史」はブックレット刊行を予定し、だれもがわかりやすく、歴史や地域遺産を学べることを目指します。まだまだ未調査の資料がたくさんあります。これから更に新しい「多治見市」を発見し、みなさんに公開できることを楽しみにしています。

